

Thermolysis

遠赤外線支える椅子クッション市場調査



August, 2025



製品紹介とポジショニング

製品名：ネオ・カーボン椅子クッション

◆ 主な機能：

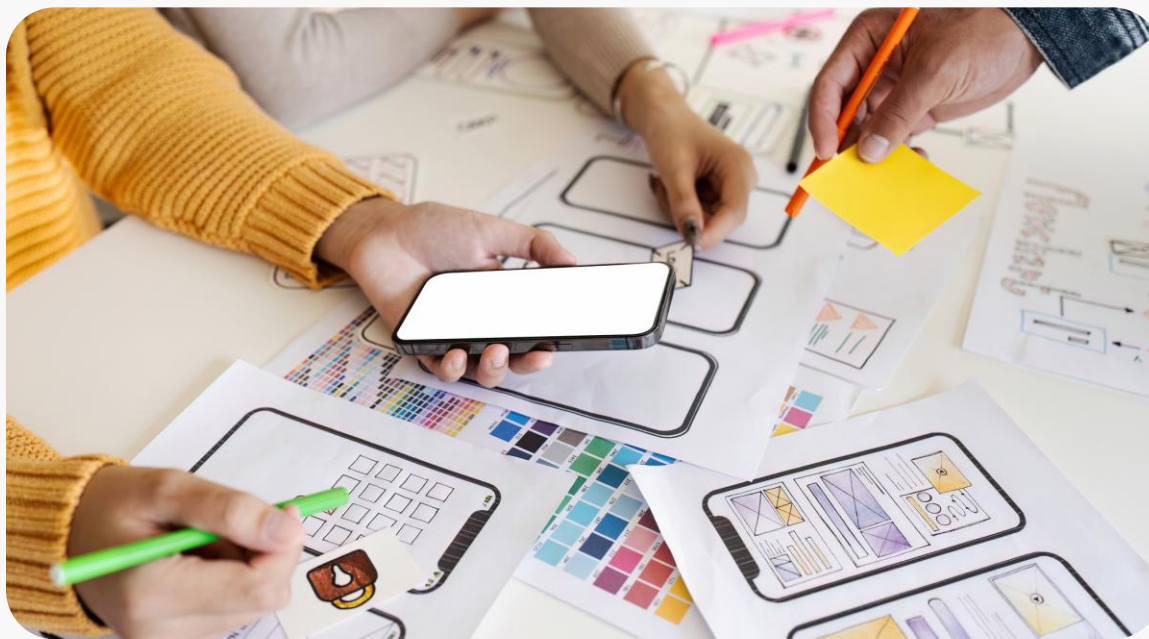
- 遠赤外線放射：血行促進・疲労緩和に貢献。
- 軽量化：持ち運びやすく、オフィス・自宅・車内などさまざまな場面で使用できます。
- サポート構造：腰椎と骨盤をしっかりサポートし、長時間の座り疲れや痛みを軽減します。
- ESG対応：先端再生炭素繊維素材使用でESG支援。

参考上代価格：¥14,500（中～高価格帯）



【仕様】

- 素材：再生カーボンファイバー複合材、ポリエステル、スポンジ
- 製品重量：約1kg
- サイズ：座面幅37.5cm × 背もたれ高さ35cm × クッション奥行き33cm
- カラー：ブラック
- 原産国：台湾



調査サマリー

確かな需要：日本ではテレワーク定着・長時間の座位・高齢化により、腰痛・猫背・座り疲労の悩みが広範に存在。

既存品の限界：低反発だけ・形状記憶だけ…といった単機能クッションはへたりや蒸れ、支持不足が不満点。

当社製品の差別化ポイントは日本市場で明らかに出ています

再生カーボンファイバー複合材の剛性×弾性で骨盤を安定、姿勢維持と座圧分散を両立。軽量・持ち運びでオフィス／在宅／車内に跨る使用シーンをカバー。

市場背景と消費者の意見

- ワークスタイル：長時間PC作業・在宅勤務の増加で、「家庭椅子の非エルゴnomics」という構造的課題。

楽に長時間座りたい／集中力を保ちたい／運転時の腰の張りを軽減したい／どこで仕事でも同じ快適さを再現したい。

- モビリティ：車通勤・営業・運送ドライバーの長距離運転による腰部負担。

椅子の腰椎支持が足りない／使うほどクッションがへたる／蒸れ・暑さ／大きくて持ち運べない／「効くか分からない」。

- シニア市場：加齢に伴う体幹筋力低下→骨盤後傾→猫背、日常生活の座位時間の長期化。

骨盤の前傾を適正化し猫背を抑制、座圧分散で局所痛を減らす、通気・清潔、軽量でマルチシーン、環境配慮。

市場アプローチのキーポイント（悩み解決）

セグメント	年齢層/性別	主な悩み・ニーズ	再生カーボン腰背クッションの効果
オフィスワーカー	25-55	猫背・腰の張り・集中力低下	骨盤支持で姿勢安定／座圧分散／長時間でも快適
ドライバー	30-65	長距離運転の腰痛・振動	弾性コアで微振動吸収／奥行33cmで腰椎支持
在宅勤務層	25-50	家具が非エルゴ／蒸れ	置くだけエルゴ化／通気・洗えるカバー
シニア	55-75	体幹低下・骨盤後傾	剛性×弾性で前傾補助／座り立ちが楽に
ESG志向	25-45	機能と環境の両立	再生カーボン採用／長寿命で買替削減

人口動態と健康ニーズの分析

指標	データと傾向	製品価値への示唆
高齢者比率	65歳以上が約3,600万人（29.1%）、40歳以上は人口の過半数	高齢化に伴う筋力低下・骨盤後傾・腰痛リスク増加 → 腰椎サポート需要拡大
姿勢・健康意識の変化	40代以降「健康維持・快適性・高機能素材」重視へシフト	デザイン性だけでなく、長時間快適さ・素材機能性（通気、軽量、環境配慮）が重要
慢性腰痛／背部不快感	約2,800万人が慢性的な腰部・背部の不快感を訴える（※厚労省・整形外科学会推計）	骨盤の安定と座圧分散で長時間座位の負担軽減が可能
睡眠障害・疲労感	40～60代では日中の疲労感・倦怠感の訴えが高い（在宅勤務も要因）	正しい座姿勢による呼吸改善・血流促進が集中力と疲労回復に寄与

- ➡ 分析から導かれる市場アプローチ
- 高齢化＋在宅勤務 → 家庭用チェア改善ニーズが加速
 - 健康経営の推進 → 企業は従業員の腰痛予防に投資
 - ドライバー市場 → 長距離運転の腰部負担軽減アイテムへの関心増
 - ESG/サステナビリティ意識 → 再生カーボン素材の差別化価値

➡ 本製品の新価値提案（腰背サポートクッション）
「毎日の座位姿勢改善 = 骨盤サポート + 疲労軽減 + ESG + 健康」

- 再生カーボンファイバー複合材による剛性×弾性のバランスで長時間姿勢を保持
- 通気性・洗濯可能カバーで衛生面も確保
- 軽量・持ち運び可能でオフィス／在宅／車内の3シーンをカバー
- 環境配慮素材で企業調達のESG要件にも対応

日本における遠赤外線関連市場の現状と動向

1. 遠赤外線療法機器（Far-Infrared Therapy Device）市場の成長

- 遠赤外線を活用した家庭用治療機器（血流促進・疲労回復用）の世界市場が拡大中で、日本を含むアジアでも需要増。家で使える「非侵襲的治療」として人気が高まっている、とされています。
- 消費者の健康志向・セルフケア需要の高まりを背景に、これら機器を使ったヘルスケア市場の成長が確認できます。

2. リカバリーウェア市場における遠赤外線応用の拡大

- 遠赤外線素材を織り込んだ「リカバリーウェア」（睡眠・休養時に着用する衣類）の市場規模は、2019年の約867億円から2030年には約5,642億円まで成長すると予測（国内調査）
- 運動選手から一般層まで広く利用され、遠赤外線の“血流促進・疲労回復効果”が訴求されている点で、健康美容トレンドの一端を示しています。

3. サウナ・スパ市場の拡大と「遠赤外線サウナ」の認知度上昇

- 遠赤外線サウナを含む日本のサウナ・スパ市場は、2024年の約18億6,000万ドルから2033年に123億ドルへと成長予測。特に遠赤外線サウナへの注目が高まっていることが分かります。このことは、消費者が“遠赤外線”という健康技術に対して好意的であることを示唆しています。

4. 美容家電市場における遠赤外線機能搭載製品の主流化

- 日本国内の高機能ヘアドライヤー市場では、「遠赤外線」技術と大風量を組み合わせたブランド（例：ReFaのビューテックシリーズ）
- 遠赤外線とマイナスイオンを組み合わせたヘアドライヤーが2025年の売れ筋ランキング上位に入っているという現状も確認されます。

- 明確な「ヘアブラシ・梳子向け」の遠紅外線商品市場規模データは確認できませんでしたが、
 - 健康・癒しを目的とした遠赤外線治療機器・衣類・サウナ商品が急成長している。
 - 美容家電（特に高性能ドライヤー）に遠赤外線技術が搭載され、支持されている。

➡ これらの傾向から推察すると、「遠紅外線を搭載した育毛・頭皮ケア」商品は、日本の健康美容意識と親和性が高く、**潜在的な市場機会**が十分存在すると言えます。

第三者機関による遠赤外線検証試験

👑 遠赤外線放射率 0.9以上

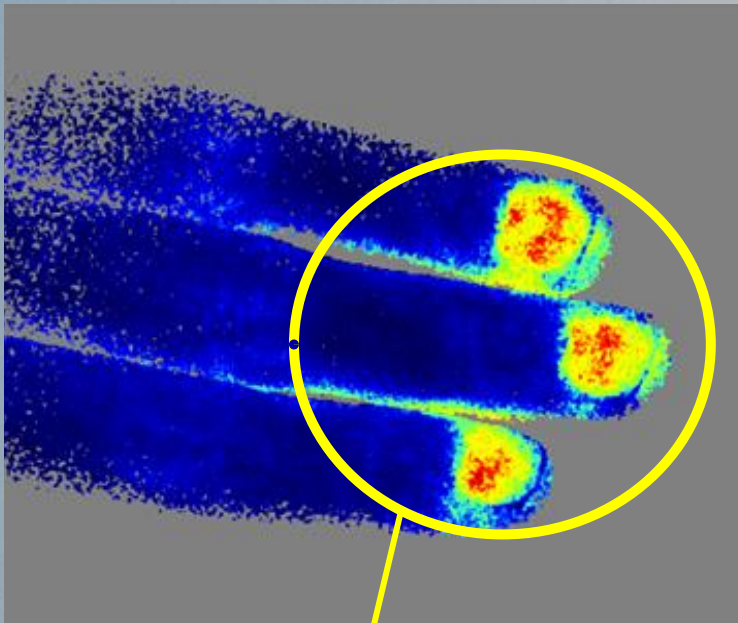
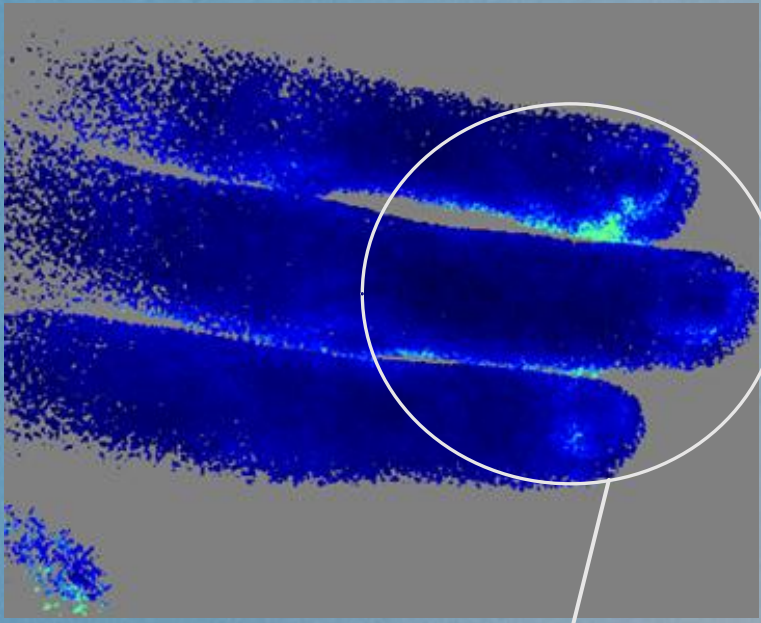
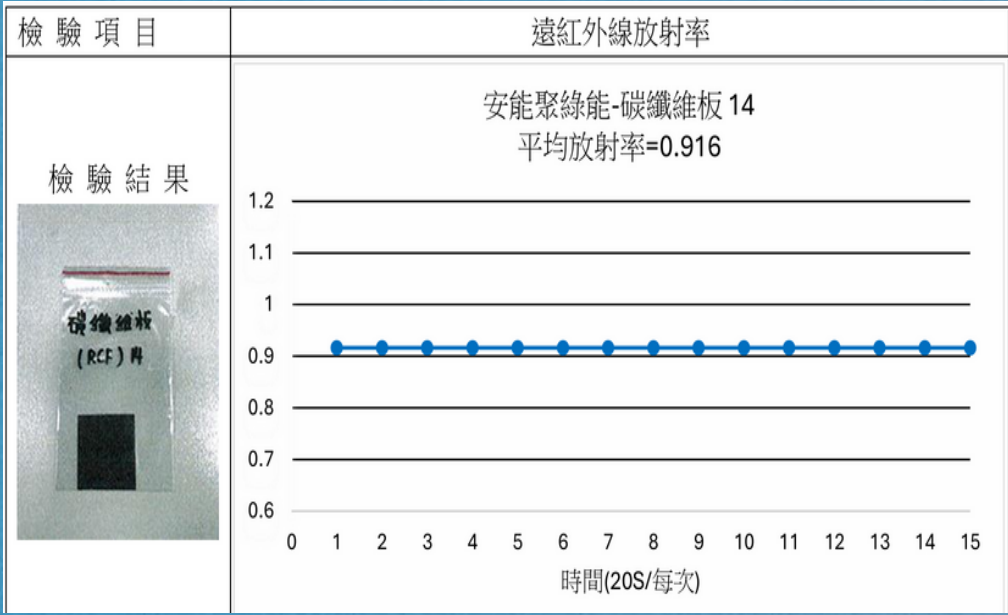
0.9以上

👑 末梢血流量が17.4%増加

17.4%

👑 導電グレード：静電気を徹底除去

$10^3 \sim 4$ オーム



出典：台湾応用放射線与同位素雑誌、運動生物学、光皮膚病学、光免疫学、及び光医学などの分野の国際学術期刊によると、遠赤外線の機能には以下が含まれます：

新陳代謝の向上全身および局所の血流の向上皮膚表面の微小循環の改善表面温度の上昇



出典2：アメリカのペンシルバニア大学のシリゴ廉諾教授の研究によると、静電気が人体に多方面、多角的、多層的な損害を引き起こす可能性があることが発見されています。

以下が含まれます：
脳神経細胞膜の電流伝導異常を引き起こす中枢神経系に影響を与えるめまい、頭痛、不眠、精神的なぼんやり感を引き起こす髪の毛が縮れて絡まりやすく、切れやすい毛鱗片の損傷

販売チャネル適正分析（日本B2B対象）

チャネル分類	推奨ターゲット	適正理由
ドラッグストア	マツキヨ、ウエルシア、ツルハドラッグ	健康グッズ・姿勢改善商品の購買率が高く、熟年層・在宅勤務層の来店頻度が多い
家具・ホームセンター	ニトリ、島忠ホームズ、カインズ	在宅ワーク普及により、家庭用チェアや姿勢改善クッションの需要拡大
百貨・雑貨選品	LOFT、東急ハンズ、PLAZA	機能性とデザイン性の両立でギフト・プレミアムコーナーに適す
ECモール	Amazon、楽天、Yahoo!ショッピング	幅広い年齢層にリーチ可能、レビュー・ランキングによる認知拡大が有効
オフィス用品販売	コクヨ、アスクル、オフィスデポ	健康経営推進の流れで、企業が従業員用の腰痛予防グッズを導入する傾向

販売ポテンシャルおよび収益試算（2025～2027）

年度	チャネル	想定販売個数	平均単価	年間売上予測
2025	初期テスト販売	2000	¥14,500	¥29,000,000
2026	雑貨・EC／百貨展開拡大	5000	¥14,500	¥72,500,000
2027	OEM／コラボ展開	6000	¥14,500	¥87,000,000

➡ 3年以内に年商5千万以上突破可能成長モデル。

Thermolysisについて

Thermolysis Co., Ltd. は再生炭素繊維複合材料メーカーとして、最先端の炭素繊維複合材料を開発しています。ユニークな炭素繊維リサイクル技術の持ち主で、バージン炭素繊維と再生炭素繊維を両立していて、ニーズに応じてソリューションをご提供します。

私たちの使命は：

- 次世代素材ソリューションの提供
- サーキュラーエコノミーの推進
- カーボンフットプリントの削減



- 材料開発から製品化、カスタマイズまで、ワンストップの低炭素ソリューションを提供し、
- 「グリーン・イノベーション」を「グリーン・競争力」へと進化させます。